

PISA型読解力と国語科の融合

－PISA型読解力とワークシート－

PISA型読解力

- ア 情報の取り出し
- イ 解釈
- ウ 熟考・評価
- エ 論述

(ア) 情報を取り出す

「情報を取り出す力」とは、文章の中から無目的あるいは雑多に取り出すことではない。目的つまりこの場合は学習課題に沿って、自己の判断を加えながらよりよい情報を取り出すのである。

大造じいさんとガン ④ 4の場面

「春になって、残雪が元気になった様子を、最もよく表している言葉を一つ書き出しましょう。その理由も書いて下さい。」

ことば

大造じいさんとガン の下に立って、大造じいさんが、 なまをかんによび かけました。	残雪が北へ北へと 飛びまわった。	三つ葉の葉は落ちてきた。	飛ぶよかりました。
大造じいさんの行動の様子を表す言葉や文を地の文の中から四つ書き出さない。そして、その時の大造じいさんの気持ちや想像して書きましょう。(つまり、「大造じいさんは、」という主語の文が四つあるということです。)	大造じいさんの気持ち	上の言葉を選んで理由	三つ葉の葉は落ちてきた。

ことば

大造じいさんの行動の様子を表す言葉や文を地の文の中から四つ書き出さない。そして、その時の大造じいさんの気持ちや想像して書きましょう。(つまり、「大造じいさんは、」という主語の文が四つあるということです。)	大造じいさんの気持ち	上の言葉を選んで理由	三つ葉の葉は落ちてきた。
--	------------	------------	--------------

次に、PISA型読解力と国語科学習の融合について説明させていただきます。

私どもが以前から取り組んでいるワークシートの中身をPISA型読解力の観点から見ると、非常に共通点が多いことに気がきました。

そこで、PISA型読解力の観点でワークシートを見直すことはワークシートの改善につながるのではないかと考えました。

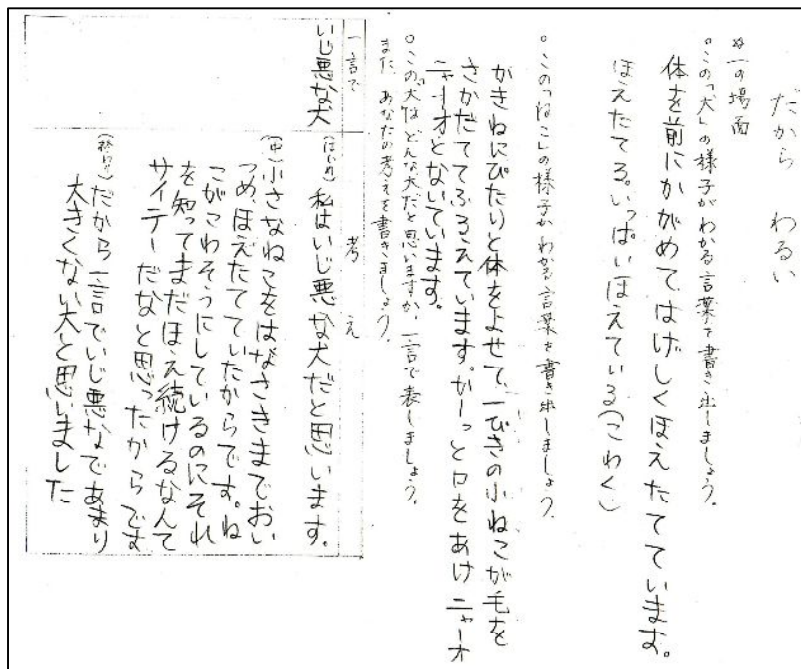
まずPISA型読解力で求められている学力の一つ、「情報を取り出す」についてですが、『情報を取り出す力とは、文章の中から無目的あるいは雑多に情報を取り出すことではない。目的つまりこの場合は学習課題に沿って、自己の判断を加えながらよりよい情報を取り出すのである。』と考えています。大造じいさんとガンのワークシートの例では、課題1についてですが、この場面では、「残雪が元気になった様子」を表すと考えられる言葉は教科書の文章中にいくつもあります。「最もよく表している」と考えられる言葉を自己の判断で選択させる、つまり、情報の質を子どもに問いたかったのです。このように、情報を取り出す力の育成と言う場合、質も考えさせていくことは重要ではないかと考えています。また、課題2では、主語が省略された文も含む、主述関係つまり文法を意識させる課題としています。

(エ) 論述

論述で大切にしていることは、

- ・根拠をあげて、自分の考えを述べる。
- ・文章構成を意識して表現する。

の2点である。つまり、表現された文章が、「初め・中・終わり（まとめ）」の構造を持ち、「中」の部分で具体例をいくつかあげて、自分の考えの根拠とする。このようなまとめ方の力をつけることをめざしている。



このワークシートは、本年の1学期に行った5・6年共通教材「だからわるい」のものです。1の場面の学習では、犬や猫のイメージ化をするための解釈が子どもだけでは難しいと考え、解釈は全員で行いました。

ワークシートの最後の課題は、学習のまとめをしつつ論述の力をつけることをねらったものです。

書く中心点を明確にするために、まず、犬のイメージを一言で表すよう求め、その根拠を記述させるよう指導しました。「一言で表す」という過程を経ておくと、どの子ども記述しやすかったように思います。

「だから わるい」の論述の例を紹介します。

まず、一言で「いじわるな犬」とし、

「私はいじわるな犬だと思います。

小さな猫を鼻先までおいつめ、ほえ立てていたからです。ねこがこわそうにしているのに、それを知ってまだほえつづけるなんて、サイテーだなと思ったからです。

だから、一言でいじわるなで、あまり大きくない犬としました。」

この論述では、意地悪と思う根拠が書かれていますが、あまり大きくない犬というイメージの根拠が書かれていません。

論述については、どの学年のどの子どもそれなりに一定のことを書けているように思われますが、そのことへの分析は進んでいないのが実状です。